

## 第18回 鳥取県少年学年別個人剣道錬成大会 開催要項

1. 趣 旨 鳥取県の小学生・中学生に、剣道の正しい習得、心身の錬磨及び相互の親睦による日本の将来を担う少年の健全育成の場を提供する。  
同学年の道場生との試合・交流を通して、自身の剣道の習熟度を  
知り、今後の成長を促すことを目的とする。

2. 主 催 鳥取県剣道道場連盟

3. 後 援 一般財団法人 全日本剣道道場連盟、一般財団法人 鳥取県剣道連盟、  
(予定) 新日本海新聞社、山陰中央新報社、中海テレビ放送

4. 協 力 鳥取県剣道道場連盟西部支部

5. 期 日 令和6年11月4日(月・祝) 午前9時30分開会

西部、中部(赤碕、東伯、瑩芯館)	中部(大栄、北条、倉吉)、東部
8:10～ 受付	8:30～ 受付
8:15～ 練習(30分間)	8:50～ 練習(30分間)
8:45 練習終了	9:20 練習終了

6. 会 場 鳥取県立武道館(米子市両三柳3192-14 電話:0859-24-9300)

7. 部 門 実施する部門は、下記に示すとおりとする。

- ・初心者の部(別紙)
- ・幼年の部
- ・小学生1年生の部
- ・小学生2年生の部
- ・小学生3年生の部
- ・小学生4年生の部
- ・小学生5年生の部
- ・小学生6年生の部
- ・中学生男子1年生の部
- ・中学生男子2・3年生の部
- ・中学生女子1年生の部
- ・中学生女子2・3年生の部

※申込みの状況により、部門を変更する場合がある。

8. 参加資格 (1) 一般財団法人全日本剣道道場連盟に加入の鳥取県内道場に所属する  
少年少女剣士であること。  
(2) 参加少年少女剣士は保護者の同意を得ること。  
(3) 参加者は全道連の少年剣士会員章(ワッペン)を剣道着の右上腕  
部につけること。  
(4) 1道場何名でも出場可能。

9. 申込方法 (1) 申 込 書 別紙の申込書により申し込むこと。その際、事故対策  
及び個人情報保護法の一環として親権者の同意を必ず  
得ることとし、申込書は同意を得たものとして取り扱  
うこととする。  
申込書は楷書で丁寧にわかりやすく記入すること。  
監督、選手以外の審判員、補助員、観戦者についても  
申し込みを行うこと。

(2) 申込先 メールまたは郵送で事務局まで提出する。  
鳥取県剣道道場連盟 事務局 荒井 猛  
〒689-2313 東伯郡琴浦町杉下209  
電話 090-9505-7212  
E-mail tsurugimichi@gmail.com

(3) 申込期限 令和6年10月18日(金) 必着  
期限後の申込は受け付けない。

10. 参加費
- (1) 個人戦 選手1人 1,000円
- (2) 納入方法 下記口座に、申込期限までに、道場名を付して振込む。  
振込口座 山陰合同銀行東伯支店  
普通口座 3627572  
鳥取県剣道道場連盟 一般会計 荒井猛  
※参加費はいかなる理由においても返金しない。

11. 参加方法
- (1) 団旗 開会式において使用する。
- (2) 道場旗 道場旗の館内掲示は可とする。
- (3) 少年剣士会員章 全道連指定の少年剣士会員章（ワッペン）を剣道着の右上腕部につけること。
- (4) 垂れネーム 所属道場名、氏を記入した名札を着用。学校名は認めない。
- (5) 紅白タスキ 選手の背中に付ける紅白のタスキは各道場で持参する。

12. 試合方法
- (1) 「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を遵守して行う。
- (2) 試合はトーナメント方式で行い、全日本剣道連盟の定める試合・審判規則並びに細則、および、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法によるほか、本大会の定める方法による。初心者の部は、別に定める基本判定試合実施要領により行う。
- (3) 試合時間は、小学生2分・中学生3分とする。
- (4) 個人戦は全て3本勝負とする。時間内に勝敗が決しない場合は、1本勝負の延長戦を2分間行う。それでも勝敗が決しない場合は、3年生以下の場合は、判定において勝敗を決する。ただし、4年生以上及び3年生以下の準決勝、決勝の延長戦は、2分ずつ時間を区切って、延長3回で1回3分間の、必ず面を外しての休憩をとり、勝敗の決するまで行う。休憩中の水分補給は可能とするが、監督の指示は禁止とする。水分補給用の飲み物は事前に準備しておくこと。判定の要件は、道場連盟申し合わせ事項として、積極性及び姿勢態度も重視し、総合的に判断する。
- (5) 試合者は鏝競り合いを避ける。接触した瞬間の引き技、及び体当たりからの技(発声を含む)は認める。やむを得ず鏝競り合いになった場合、試合者はすみやかに分かれる。(鏝迫り合いは一呼吸3秒程度とし、剣先が触れない所まで下がる。)
- (6) 「上段の構え」、「突き技」については、公益財団法人日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項に準じ禁止する。但し、隻腕等の場合は事前に大会本部に連絡すること。

- (7) 竹刀の規格は、全日本剣道連盟の規則に従う。但し小学生は111cm（3尺6寸）以内とし、中学生は細則通りとする。また、計量は実施しない。
- (8) SSPシールが貼付している竹刀以外の使用を認めない。
- (9) 試合者は試合中、面マスクまたはマウスシールドを着用する。
- (10) 組合せについては、主催者により事前に抽選する。
- (11) 選手の呼び出しを行うので、選手は大きな声で返事をすること。  
相互の礼は、試合場外から立会いの位置に進み、提げ刀の姿勢で行うこと。  
相互の礼の後、帯刀し、「すり足」で三歩前進し、三歩目で開始線で竹刀を抜き合わせ、左足を引き付けて蹲踞すること。試合後の蹲踞の後、後退する場合は小さく五歩「すり足」で立会いの位置に戻ること。

13. 表彰 (1) 各部門上位 8 人に入った選手を表彰する。  
(2) 上記以外奨励賞を各部門で表彰する。

14. 安全対策 (1) 少年剣士会員章(ワッペン)着用 of 選手は、傷害保険が適用される。  
(2) 主催者は大会中の負傷に対し応急手当をする他は、一切の責任を負わない。  
(3) 監督及び補助者が、必ず選手を引率し、大会中の選手の健康管理その他すべての行動に責任を負う。試合場内外における参加者の行動に十分注意し事故の防止に努めること。  
(4) 保護者等は、所属の道場がわかるようネームの着用、統一のユニフォームの着用、テープによる表示などを行うこと。  
(5) 監督・補助者は、試合及び稽古前には必ず竹刀の点検を行うこと。  
(6) 会場では予めAEDの場所及び使用方法について確認しておくこと。  
(7) 気温、室温が高くなることが予想されるので、各道場で熱中症対策、適度な水分、塩分補給の対策などを行うこと。

15. 感染症対策 (1) 公益財団法人全日本剣道連盟の定める「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を遵守し感染対策を行う。  
(2) マスクの着用について、個人の判断にゆだねることとする。  
選手は、試合時は面マスクまたは口を覆うシールドを着用する。  
(3) 来場前に必ず検温をして、37.5度以上の者は参加しない。  
(4) 咳・のどの痛みなどの風邪の諸症状のある者、だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）、嗅覚や味覚の異常など諸症状のある者、同居家族に上記の症状のある者、同居家族に感染が疑われる者がいる場合は、参加しない。  
(5) こまめに消毒、手洗いを行い、咳エチケットを守る。  
(6) 観客席は、申込状況により、事務局で振り分ける。

16. 審判 (1) 審判員は、道場連盟またはその他の団体が実施する「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」の講習を受けた者とする。  
(2) 審判時のマスクは着用しない。  
(3) 9:00から研修室 1 で審判会議を行う。  
※参加道場については、2名以上の審判員をご協力ください。

17. 監督 (1)監督・補助者は1道場につき、出場選手が10名以下の場合は2名以内、10名を超える場合は4名以内とする。  
(2)監督・補助者には監督証を交付する。監督証をつけた者以外は主道場に入らないこと。  
ただし、初心者の部に限り、選手の誘導など補助のため、保護者等の付き添いを認める。  
(3)9:15から研修室1で監督会議を行うので、各道場から1名以上参加すること。

21. 補助員 (1)試合場の補助員は、保護者、鳥取県西部地区の高校剣道部で行う。  
(2)補助員は①招集、マスク装着及び竹刀確認、②計時、③呼び出し・記録を行う。  
※参加道場については、2名の補助員をご協力ください。状況により高校生のみとする場合があります。  
(3)補助員打ち合わせを行うので、補助員は参加すること。実施時刻は、放送で案内する。

19. その他 (2)申込書に記載された個人情報、参加資格の確認等の大会運営業務以外には使用しない。ただし、個人情報で競技用の事項に関わる次の事項は公表する。申込書の記載に際しては、本人及び保護者の了解を得ておくこと。  
①氏名 ②学年 ③性別 ④道場名  
(3)主道場は、選手、監督、補助者、審判員及び大会役員以外入らないこと。観戦者等は、2階観覧席で応援をすること。  
(4)事故防止の観点から、試合場内での写真、動画の撮影は禁止とする。観覧席から撮影を行うこと。  
(4)剣道試合・審判運営要項の中に「試合者への声援をしてはならない」とあり、応援は、拍手のみとする。  
(6)選手は、開会式での挨拶、表彰の返事など大きな声で行うこと。  
(7)試合場外の審判席近隣での応援は禁止とする。  
(8)周辺駐車場は混雑が予想されるので、できる限り乗り合わせで来場すること。

20. 問い合わせ先 鳥取県剣道道場連盟 理事長 谷口和則  
電話番号 090-8064-3177

## 基本判定試合実施要領 (初心者対象)

### 1. 参加対象

剣道を習い始めてから面を着けて稽古していない初心者

※道場生全員が参加できるよう、参加条件に合わない場合は相談ください。

※原則、SSPシールの貼っていない竹刀の使用を認めていないが、SSPシールの貼っていない30(3尺0寸)、28(2尺8寸)の竹刀の使用を認める。

### 2. 試合種目及び方法

(1) 部門は、以下のとおりとする。

①幼年の部、②小学生1年生の部、③小学生2年生の部、

④小学生3年生の部、⑤小学生4年生の部、⑥小学生5年生の部、

⑦小学生6年生の部、⑦中学生の部

ただし、申込状況等により、部門を複数に分け、または統合する場合がある。

(2) 試合は個人戦トーナメント方式とする。

(3) 基本となる数種類の実技を実施させ、総合判定により勝敗を決する。

※試合者の服装は、できるだけ剣道衣、袴の着装が望ましいが、未着装でも特別に認める。ただし、見苦しくないものとする。また、試合者のタスキ(紅・白)は頭に鉢巻のように着ける。

### 3. 試合内容(主審の号令を「 」で表記)

別紙参照

### 4. 基本判定試合 判定基準(引用文献 剣道指導要領)

(1) 剣道衣、袴の着装ができているか。

(未着装者との試合についてはこの基準を適用しない)

(2) 正しい礼法(姿勢、提刀、立礼、帯刀、蹲踞)ができているか。

(3) 中段の構えができているか。(竹刀の持ち方、足の位置)

(4) 送り足ができているか。

(5) 腹の底から自然にほとぼしり出るように、大きく力強い発声ができているか。

(6) 竹刀の操作・正しい動きの方向(太刀筋)・必要な手の内・足さばきと関連させた動きができているか。

(7) 打ち込んだ時の足(すり足・踏み込み足)ができているか。

→一般的に初心者は、すり足より踏み込み足を使って打突するほうが、習熟度が高いと見なされる。

(8) 技が正確(気剣体一致)であるか。

(9) 最後まで気合と体勢が崩れてないか。

(10) 残心がなされているか。

以上

【別紙】 試合内容

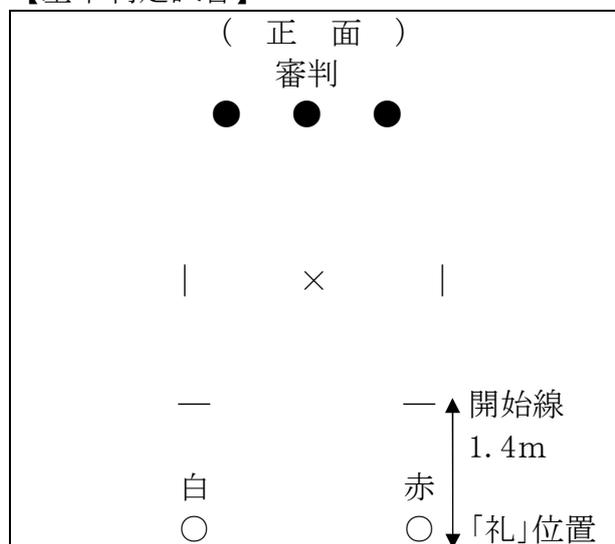
	内容	詳細
礼法	<p>ステージ側を向き、提刀のまま試合場に入り、「礼」、「帯刀」、2歩前進し3歩目に開始線での「蹲踞」そして「構え」。</p> <p>※選手は2人揃って行う。</p>	<p>蹲踞して構えるまでは、剣道指導要領通り（正面を向いたまま）</p>
足さばき	<p>「足さばき。前進後退」 構えたまま「前」→「後」 →「前」→「後」 次に「前・前」→「後・後」 →「前・前」→「後・後」</p>	<p>中段の構えのまま送り足で前に1歩、後に1歩を2回行う。次に前に2歩、後に2歩を2回行う。</p> <p>※公平を期すため掛け声は出さないよう統一する。</p>
素振り	<p>「前進・後退、上下素振り10本始め」 構え直して、次に「前進後退、正面打ちの素振り10本始め」</p>	<p>〔上下素振り〕 中段の構えから「手の内（掌中の作用）」を変えないようにして竹刀をできるだけ大きく振りかぶり、止めることなく両腕を伸ばし、左拳を下腹部の前まで引きつけるように十分に振り下ろす。 振り下ろしは両手を内側に軽く絞るようにして、振り下ろした時の剣先の位置は膝頭よりやや下、下段程度の高さにする。 また、1歩の前進後退の足さばきを伴い、振りと協調させる。</p> <p>〔正面打ちの素振り〕 身体の中正線に沿ってまっすぐ振りかぶり、重心を移動させながら1拍子で正面を打つ。両腕を十分に伸ばし、右拳は肩、左拳は鳩尾（みぞおち）の高さを目安で止める。また、1歩の前進後退の足さばきを伴い、振りと協調させる。</p> <p>※素振りの掛け声は数（1から10）を発する。</p>
打ち込み	<p>※元立ちを立たせないで空間打突とする。 「正面の打ち込み2本始め」（1本打って回転し、構え直して、もう1本） 【1往復】 構え直して、次に「小手・面の打ち込み2本始め」（1本打って回転し、構え直して、もう1本） 【1往復】 その後選手は、開始線にて構え、審判の判定を待つ。</p>	<p>〔正面の打ち込み〕 大きな掛け声を掛け「ヤー!」、1歩攻めて、両腕の間から相手の面が見える程度（仮想）の位置まで竹刀を頭上に振りかぶり、右足（前足）から送り足（すり足・踏み込み足）で打つ。打突と同時に「メン!」と鋭い氣勢で呼称する。打突後、適度な余勢を保った後、右足を軸に左回りに回転し、中段に構える（残心）。同様に、もう1回繰り返す。</p> <p>〔小手・面の打ち込み〕 大きな掛け声を掛け「ヤー!」、1歩攻めて、両腕の間から相手の打突部位（小手・面）が見える程度（仮想）の位置まで竹刀を頭上に振りかぶり、右足から送り足（すり足・踏み込み足）で打つ。打突と同時に「小手・面!」と鋭い氣勢で呼称する。打突後、適度な余勢を保った後、右足を軸に左回りに回転し中段に構える（残心）。同様に、もう1回繰り返す。</p>
判定	<p>勝敗は、上記(1)から(4)までの総合判定とする。〔判定基準については、「4. 基本判定 試合 判定基準」の通りとする。〕主審の「判定」宣告で勝旗を挙げる。主審は勝旗を確認し「何対何、勝負あり」と宣告する。（判定に引き分けは認めない）〔注：主審だけが異なる旗であっても持ち替えず宣告を行い、掲示の確認もあわせて行う。〕</p>	
礼法	<p>「蹲踞」→「帯刀」 5歩小さく退って 「提刀」→「礼」を行い、正面を向いたまま退場する。</p>	

## 審判の号令（例）【最初から最後までの流れ含む】

1. 「礼（れい）」
2. 「帯刀（たいとう）」
3. 「蹲踞（そんきょ）」
4. 「構え」 ※以後、それぞれの実技前に「構え」を入れる。
5. 「足さばき。前進後退」  
「前（まえ）」→「後（あと）」→（1回繰り返す）→  
「前・前（まえ・まえ）」→「後・後（あと・あと）」→（1回繰り返す）
6. 「前進後退、上下素振り10本始め」
7. 「前進後退、正面打ちの素振り10本始め」
8. 「正面の打ち込み2本始め」  
（1本打って回転し構え直して、もう1本）【1往復】
9. 「小手・面の打ち込み2本始め」  
（1本打って回転し構え直して、もう1本）【1往復】
10. 「判定」
11. 「何対何、勝負あり」
12. 「蹲踞（そんきょ）」
13. 「提刀（さげとう）」
14. 「礼（れい）」

※主審の声が聞こえにくいため、待機する審判が指示する。

### 【基本判定試合】



ステージ側を向き、提刀のまま試合場に入り、  
「礼」、「帯刀」、  
2歩前進し3歩目に開始線での「蹲踞」、「構え」

道 場 名 \_\_\_\_\_

申 込 責 任 者 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 \_\_\_\_\_

## 第 18 回鳥取県少年学年別個人剣道錬成大会申込書

## 【 監督・補助者 】

氏 名	氏 名

- 1) 出場選手が10名以下の場合には2名以内、10名を超える場合は4名以内とします。
- 2) 指導者でなくてもいいので、試合中の選手の誘導など、お願いします。
- 3) 申し込みのあった人数の監督証を交付します。

## 【 個人戦 】

部門	初心者 (幼・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中) 幼年・小学生(1年・2年・3年・4年・5年・6年) 中学生 (男1年・男2、3年・女1年・女2、3年)				部門	初心者 (幼・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中) 幼年・小学生(1年・2年・3年・4年・5年・6年) 中学生 (男1年・男2、3年・女1年・女2、3年)			
	フリガナ 氏 名	性別	学年	段級位		フリガナ 氏 名	性別	学年	段級位
1					1				
2					2				
3					3				
4					4				
5					5				

部門	初心者 (幼・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中) 幼年・小学生(1年・2年・3年・4年・5年・6年) 中学生 (男1年・男2、3年・女1年・女2、3年)				部門	初心者 (幼・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中) 幼年・小学生(1年・2年・3年・4年・5年・6年) 中学生 (男1年・男2、3年・女1年・女2、3年)			
	フリガナ 氏 名	性別	学年	段級位		フリガナ 氏 名	性別	学年	段級位
1					1				
2					2				
3					3				
4					4				
5					5				

- 1) 出場部門を「○」で囲んでください。
- 2) 各部門複数の選手を申し込む場合には道場内で強い剣士から順番にご記入ください。
- 3) 氏名は、楷書で丁寧にわかりやすく書いてください。
- 4) 氏名にはフリガナをご記入ください。
- 5) 氏名は、略字で記入しないでください。※例)「濱」を「浜」と記入しないでください。
- 6) 用紙が足りない場合は、コピーして使用ください。

令和 年 月 日

鳥取県剣道道場連盟  
会長 仲 秀典 様

道 場 名 \_\_\_\_\_  
申 込 責 任 者 \_\_\_\_\_  
電 話 番 号 \_\_\_\_\_

第18回鳥取県少年学年別個人剣道錬成大会申込総括表

部 門	男子	女子	計	参加費 (1,000円×人数)
初心者(幼年)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生1年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生2年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生3年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生4年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生5年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(小学生6年生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
初心者(中学生)の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
幼年の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生1年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生2年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生3年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生4年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生5年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
小学生6年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
中学生男子1年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
中学生男子2・3年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
中学生女子1年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
中学生女子2・3年生の部	人	人	人	1,000円× 人 = 円
合 計	人	人	人	円

上記 人 × 参加費 1,000円 = 円を振り込みます。

令和 年 月 日

鳥取県剣道道場連盟  
会長 仲 秀典 様

道 場 名 \_\_\_\_\_  
道 場 責 任 者 \_\_\_\_\_  
電 話 番 号 \_\_\_\_\_

### 第18回鳥取県少年学年別個人剣道錬成大会 来場申込書

#### 【 審判員 】

氏 名	段位	道場 外	委嘱 状	氏 名	段位	道場 外	委嘱 状

- 1) 各道場で、審判員2人以上をご協力ください。
- 2) 段位の記入をお願いします。
- 3) 道場外で審判にご協力いただける方がありましたら、道場外欄に「○」を記入ください。
- 4) 審判の委嘱状が必要な場合は、委嘱状欄に「○」を記入ください。後日送付します。

#### 【 補助員 】

氏 名	氏 名

- 1) 各道場で、補助員1人をご協力ください。途中交代されても結構です。

#### 【 観戦者 】

氏 名	氏 名

- 1) 入館者の人数を把握する必要がありますので、選手以外の指導者、補助者、観戦者についても申し込みをしてください。
- 2) 観戦のみの指導者の方も、観戦者にご記入ください。
- 3) 観戦者が多数の場合は、入館を制限させていただく場合があります。
- 4) 欄が不足する場合は、追加してください。